

## 令和 2 年度事業報告

学校法人 田中千代学園

### [ 学校として ]

平成 30 年度に、外から各種学校を引き継いだ形で文化専門課程はスタートしました。服飾専門課程との融合を課題とし、創設者の言葉「美しい花には立派な根が育まれている」原点を基本としましたが、ある点に気付かされました。基礎鍛錬を礎としインスピレーションに基づく個性を花開かせる原点は継続しますが、一年通して感じたのはコミュニケーション不足でした。反省し令和 2 年度末に、人とオフィスレイアウト刷新を図りました。

大きかったのはアート部門導入の結果、コロナ禍による服飾専門課程入学者減をアート部門入学者増と東急 BE の講座引き受けによる受講者増で 5 年連続生徒数増に繋がったことです。

### [ 服飾専門課程のこれから ]

テクニカル系は海外生産と AI 化による現場変革から新卒求人激減です。ファッション系就職を希望する場合、販売か営業職で一旦入社しチャンスを待つしかありませんでしたが、来襲したのがコロナ禍です。それにより今までにない傾向が入学段階で生じています。今年に入ってから服飾系入学応募数 0 の衝撃です。この 10 年で初めての経験で、これは就職を見据えた高校の進路指導も関わった結論と考えられ、就職先の現状からも推察できます。就職先激減は専門学校選びに影響し始め、来年度ファッション系を目指す数はガクッと減る見込みです。販売業務に関しても Net ビジネス拡大に伴い習得すべき技術変化があります。プログラミング含めデータ作成ソフト習熟へ講師探しが急務ですが苦勞しています。しかし、当学園の原点である服飾専門課程の重要性に変わりはありません。現状を見据え、今後の服飾専門課程の方向を協議し始めました。今のままでは生き残れず、方向性は独自性(プラン具現化中)を打ち出すことです。

### [ 文化専門課程(アート部門)のこれから ]

平成 30 年度にスタートした文化専門課程は 4 日制・2 日制・公開講座で成り立っていますが、目論見通りの生徒数・運営内容に達していません。公開講座は一昨秋、収益面の見直しを始め、昨秋カルチャースクール東急 Be 廃業に伴う部分吸収により利益が

るようにしました。次に2日制は、版画コース・日本画コース・彫刻コースの入学者増と継続習熟希望者増により改善が見られます。

問題は生徒数が連続減した絵画コースの苦戦です。4日制含め抜本的な見直しは急務で、対策は美大進学目的で急増している留学生にどう対処していくかです。来年度見据え、戦略的に強い部分をより強くの考え方から、クラス編成まで考え踏み込みます。

公開講座は改善しました。文化専門課程そのものも、基礎鍛錬を基本にしていますが、コース毎の分析で改善の行方が見えている部分もあり、その流れを令和3年度に繋げていくことで今後の展望につながると考えます。

#### [ 収益構造含めた抜本的対策 ]

学園運営は出生数減やコロナ禍による構造変化(ファッション産業の現場)から難しさを増しています。学生数は維持していますが定員に程遠い現状です。募集停止に至る学校も複数校に上ります。手を打たなければ当校も同じ運命です。その他収益事業(主に不動産賃貸)で支えてはいますが、プラスできる柱を考え安定化を図らなければなりません。発表には至りませんがプランはあります。具体化前に理事会に諮らせて戴きます。各種管理経費は今後数年突出要因が無く、安定的推移を見込んでいます。同時に細部に亘る見直し(非常勤講師料金体系を公開講座含め交通費込みに変更、カリキュラム体系見直しによる全体コマ数減からの経費軽減化、出退勤時間厳守により維持管理費減)等による各種経費減も見込まれることから、収益構造改善に繋がる見込みです。但し、私学法改正による資産運用収益減が無視できず、リスクヘッジしながら抜本的対策が必要とされます。

#### [ 情報収集と分析 ]

学校運営に当たり、判断材料として重要なものに情報があります。時代の流れ・業界情勢・学生の志向それぞれが絡み合います。アート部門導入も公開講座拡大も情報をいち早く察知し即断したことで実現しました。各種情報を分析し、立ち位置を定め、結果に結びつけられるよう判断し、小さな組織ですから一遍に多岐に渡り実行に移すことは困難ですが、重点を絞り込み改善に取り組みました。令和2年度は、外部情報含めた分析の結果として、公開講座黒字化、兼任講師料金体系見直し(3年度実施)、教職員勤務時間体系見直し(3年度実施)等により、令和3年度結果に反映する予定です。

以上